

# 滋賀県におけるモビリティ・マネジメント教育の浸透に向けて ～教師が使いやすい素材提示による学校教育支援の検討～

森口紋加、角謙昇（滋賀県交通戦略課）  
土崎伸、東川祐樹（株式会社オリエンタルコンサルタンツ）

岡本英晃（交通エコロジー・モビリティ財団）  
市川智史（滋賀大学 環境総合研究センター）

水山光春（京都橋大学 発達教育学部）

## 1. 背景・目的

### <これまでの取組>

- ・県内数校で、小学校2年生の校外学習の事前事業としてバスの乗り方教室
- ・鉄道利用体験支援プログラム（補助）



～エコ交通のすすめ～  
**琵琶湖環状線小学生体験学習プログラム支援事業**

**目的**  
琵琶湖環状線を利用し、小学生に鉄道に親しむ機会をとおし、琵琶湖を中心とした滋賀県の地理、歴史、自然等についての学習を促し、さらには社会性を身につけさせることを目的としています。

**概要**  
琵琶湖環状線を利用した小学生の体験学習に対して、鉄道運賃の一部補助を行います

**【対象者】** 県内の小学校、特別支援学校の小学校および外国人学校等の教育施設（外国人学校等の施設については、小学校就学年齢に相当する学年）  
※湖北・湖西地域の学校は別制度による実施のため除きます。  
湖北・湖西地域：米原市、長浜市、高島市

**【対象事業】** 琵琶湖一周体験学習（ただし、JR米原線米原駅～湖西線近江塩津駅～近江高島駅間は東海道本線米原駅～柏原駅間で1度は下車してください。）  
湖北・湖西地域の小学校との交流  
湖北・湖西地域の自然、歴史、伝統などの体験や見学等

**【対象経費】** 対象事業における児童および引率者の鉄道運賃（JRの他、信濃高原線、近江鉄道、京阪電車も対象）。ただし、引率者については、児童10人あたり1人分とし、教員は除きます。

### <課題認識>

乗り方教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスを見るだけで終わっている</li> <li>・学習にならず、やりっぱなしで終わっている</li> <li>・交通サイドとしても、効果、意義がちゃんとあるのかどうか不明確</li> </ul>
鉄道体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動手段として使えるから使っているという程度？</li> <li>・せっかく、交通に触れ、考える機会があるのに生かされていない</li> </ul>

### <検討の目的>

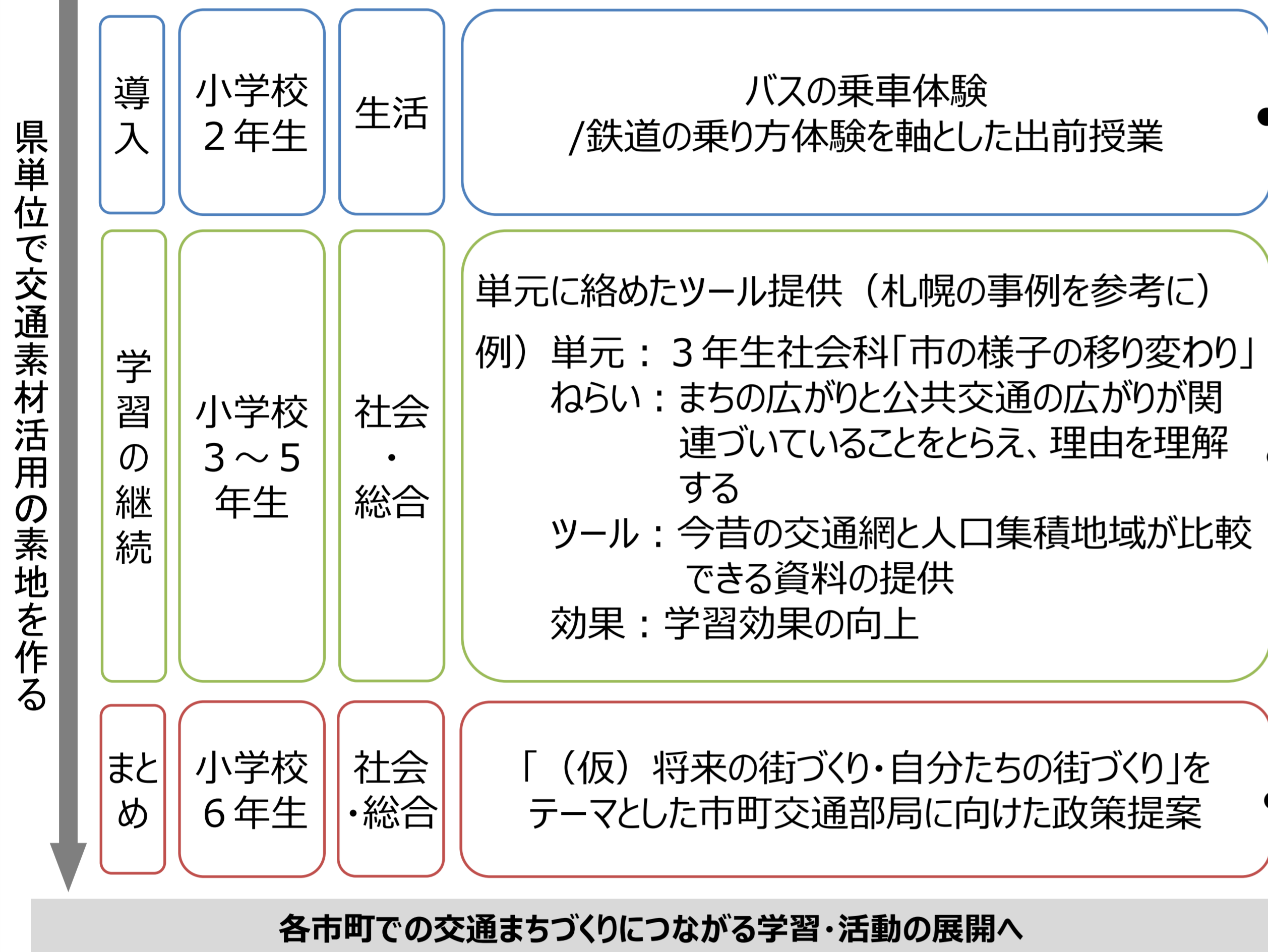
- まず、教育として意味があるものに
- ・教師、学校が“学習の深まり”に効果的と感じ、積極的に実施できるように
- ・交通サイドにとっても、教育として手ごたえがあり、一緒に考えていける取組に
- 広い地域で定着、発展するものとする
- ・教育動向、教師にとってのつらみに配慮
- ・各地で一定の量を実施、展開できる仕組み、体制を確保する

## 2. コンセプトの整理、学習支援の試行

### <MM教育のコンセプト・進め方、学習プログラム・ツール>

- ・既存資源の活用可能性やその他の視点での交通の可能性について検討
- ・行政が提供可能な交通資源拡大として、データ・人材の活用も検討

自分たちのまちづくりのことを自発的に考えられる人材の育成（交通を切り口に）



### 乗り方教室+バス・電車探検（生活科） → バス・鉄道探検をサポートし、生活科の理解を深める支援

○バス乗り方【事業者】 ○バス・電車探検【学校+行政】 ○まとめ授業【学校】

- ・乗り方説明・練習
- ・実際のバス・電車に乗車
- ・どんな人が乗っていたか、バスが無かったらどうなるか

⇒ 実物素材を用いて生活科を深めるサポートをする一つのモデルを構築

⇒ 病院に行く人、散髪屋に行く人、仕事の人等、色々な目的で利用している → バスが無いと外出できなくなる、車やタクシーを利用しないといけない

### 視覚障がい者・身体障がい者体験（総合的な学習） → バス車両を提供し、障がい者学習の理解を深める支援

○導入【学校】 ○車両観察体験【事業者】 ○まとめ【学校】

- ・車両にされている工夫を予想
- ・車両の工夫観察、障がい者体験
- ・大変だったこと、自分にできること

⇒ 福祉学習の理解を深めるサポートができたが、観察の効果的な実施方法は改善が必要

### 空き家と交通の関係（総合的な学習） → 空き家に係るデータ提供、事業者インタビュー調整、地域への理解を深める支援

○導入【学校】 ○交通事業者・行政担当者へのインタビュー ○まとめ【学校】

- ・空き家の説明と発生理由の予想
- ・地域をより良くしていくための交通の取組について
- ・空き家とならないように地域や自分ができていることを考え、提案

⇒ 地域を考える際の実態把握に、事業者や行政担当者等の交通を担う人も交通資源として活用が可能

**【H29～R1年度の結果・課題】**

- ・これまでバス車両を活用した乗り方教室やバリアフリー体験のほか、データや人等の素材を活かした学習素材づくりを実施
- ・各素材の使い方を考えやすくすること、気軽に試せるようにすること等が課題

### <テーマ：素材の活用方法の周知/気軽に試せるツール作成>

**案内冊子の作成・試行配布（素材の活用方法の周知）**

**【基本的な考え方】**

- ・これまで整理した交通素材を展開していくためには、単元の中で活用するイメージを持ってもらうことが必要
- ・単元に対する素材の活用例等を記載した案内冊子を作成し、素材活用を促す

⇒ 県内の全小学校へ試行的に配布し、案内冊子の有効性を確認する

**【結果】**

- ・コロナ禍で授業時間の確保が難しい中でも、**これまで実施がなかった地域の小学校**からの授業申込が多かった。
- ・行政による出前授業を行わず、**素材提供のみで実施する学校**や、実物素材以外にも**データや人等の素材を活用して学習を行う学校**もみられた。

⇒ 案内冊子による周知を行うことで、**交通素材の学習への活用がイメージしやすくなる**ため、学校教育への普及・展開が一定程度促せると考えられる

### 案内冊子 → 交通素材の活用を促す、周知ツールの作成・試行配布

○案内冊子の記載内容

- ・各交通素材の具体的な内容・授業の流れ
- ・学習指導要領に示されている単元・目標との関係
- ・単元・目標に対する交通素材の活用例
- ・その他、教師の感想や授業風景の写真等

**学校感想：**

- ・事例や写真があり、**授業の実施内容がイメージしやすかった**
- ・必要な時間数や授業展開パターンが示されているため、**単元全体の授業計画**が組みやすかった
- ・一度イメージがつかめれば、**教材データの提供のみ**で実施することもできそう

### 鉄道すごろくゲームの試作・試行（気軽に試せるツール作成）

**【基本的な考え方】**

- ・交通素材を活用した学習の時間を確保できない学校も多く存在
- ・授業時間を取らずに気軽に実施ができ、かつ、交通に触れながら社会科（4年/都道府県の様子）の理解を深めることを意図したすごろく型ツールを作成

⇒ 実際に試行し、ゲーム形式ツールの学習への活用可能性を確認する

**【結果】**

- ・4年生の**興味や学習レベルにあった内容**となっていることが確認できた。
- ・**試行後も繰り返し利用**され、出前授業としてではない**浸透可能性**も確認

⇒ **ゲーム形式ツールは、教師の負担とならない形で気軽に繰り返し実施**ができ、**楽しく交通に触れながら単元の理解を深める**ことが可能

### 鉄道すごろくゲーム（社会科） → 交通に触れながら社会科の理解を促す、すごろく型ツールの試作・試行

**内容**

- ・地産地消カフェの店員となり、ゲーム開始時に指定された料理に用いる食材を鉄道をつかって仕入れに行くゲーム
- ・カードに書かれているヒントを見て、必要な食材がどこにあるかを考えながら、鉄道を使って探していく

○導入

- ・駅をどの順番でまわるかを計画
- 駅の位置・食材生産場所を確認

○鉄道すごろくの実施

- ・目的駅までコマを進め、必要な食材カードをゲットしながらゴールを目指す

○まとめ

- ・すごろくをして気づいたこと（交通の広がり、地域の特徴等）

**学校感想：** **楽しみながら意欲的に**学習ができていた。交通の広がり等、**教科書ではわからない**滋賀の魅力に気づけた。

## 3. 今後の展開

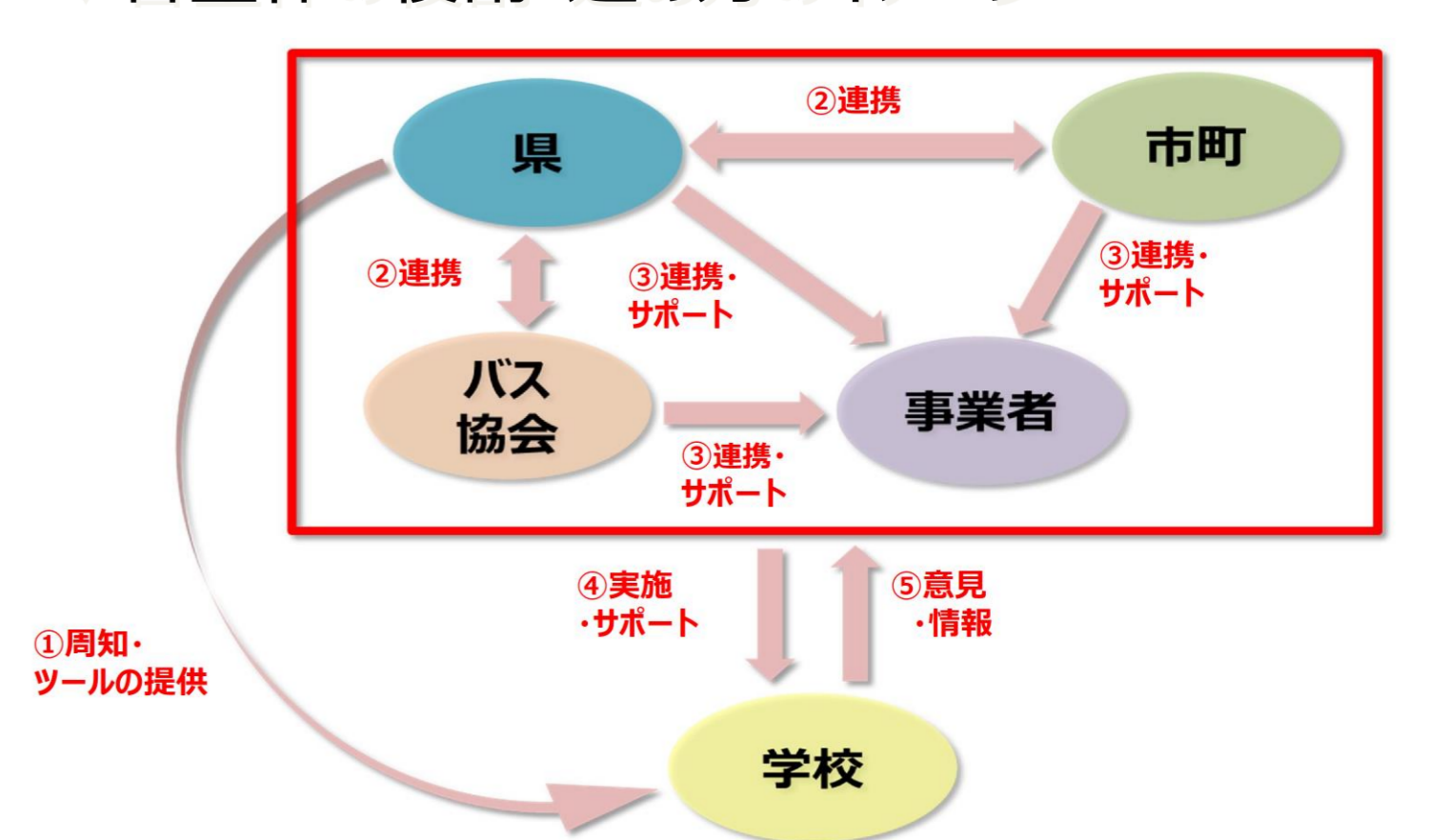
### <H29年度～R2年度の実施結果>

- 既存資源の活用にあわせ、**新たな視点での学習プログラム・交通素材を整理**
- ⇒ 実物素材等を活かせば、学習を深められる可能性が**様々な単元で存在**（地域の姿と密に関わる交通の現状・変化から、考える視点を与えられる）
- ⇒ **データや人等の素材**も活かすことで**MM教育の幅が広がり**、展開しやすくなる
- ⇒ 気軽に試せる**ゲーム形式ツール**を活用することで、より手軽に広がりやすくなる
- 交通素材の学習への周知の仕組みを構築**
- ⇒ **教師が使いやすい素材提示**を行えば、交通素材の活用につなげられる
- ⇒ 素材の活用イメージがつかめれば、**アレンジ可能な教材提供のみ**で実施できる

### <今後の展開>

- ⇒ 県内の学校現場での交通素材の活用を促すとともに、これまで整理した素材や仕組みにより、引き続き教師を支援
- ⇒ より効果的・効率的な取組とするため、市町や事業者と連携を深めながら、毎年実施する授業として定着化を図る

### ▼各主体の役割・進め方のイメージ



交通まちづくりにつながる学習・活動へと展開